

人材育成や多職種連携について

この議題に関して、内容や経緯等について説明を記載しておりますので、当日に委員の皆様のご意見をいただけますと幸いです。

【テーマ1：ともに育ち、高め合える関係へ】

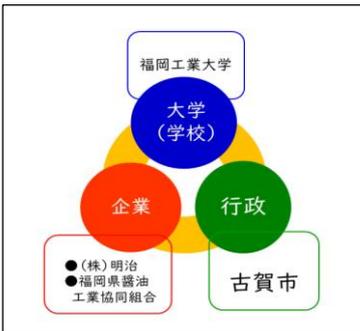
現在健康づくり係では、幅広い世代を対象とした多くの健康づくり事業を展開しています。これらの事業では、行政以外の幅広い職種の方々との連携が欠かせません。

古賀市では「古賀式私の朝プロジェクト」や「子どもの健康づくり推進事業」など産学官連携を進めています。

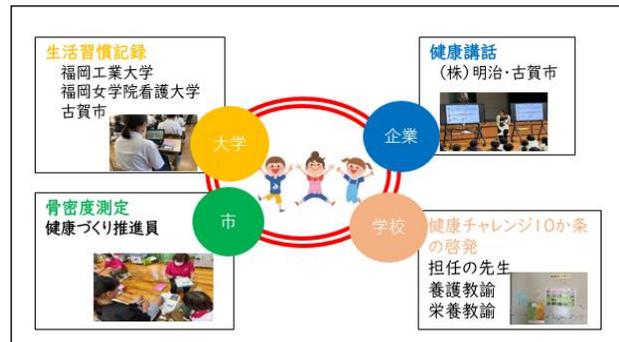
これらの事業を通じた多職種連携の中で、行政を含め関わる職員が相互に学び合い、ともに高め合っていく姿を多く目にすることができます。

例えば、子どもの健康づくり推進事業では、行政だけでなく、企業の管理栄養士や学校の栄養教諭、養護教諭などが協力し、児童に対する取組みを相互補完的に実践することで双方の専門性がさらに高まり、事業の質が充実していくのではないかと考えています。

例1：朝活プロジェクト



例2：子どもの健康づくり推進事業



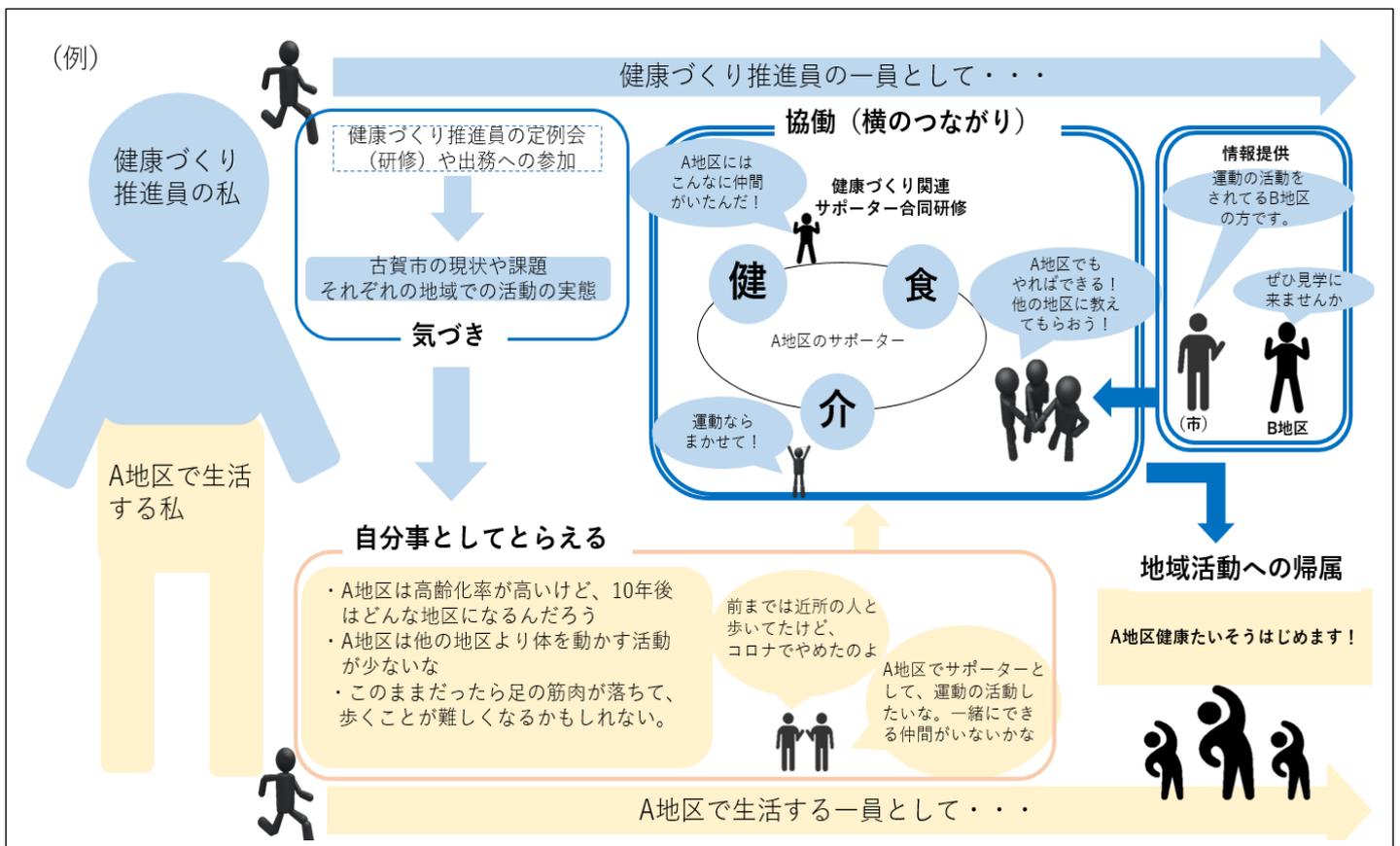
そこで以下の点についてご意見を伺いたいと考えております。

1. 皆さんの業務や活動の中で、他機関との連携等を実施したことで効果的に事業を進められた事例や必要な視点があればお聞かせください。

【テーマ2：サポーターが地域活動へ帰属するには】

古賀市では、市民力を活かした健康づくりや介護予防の推進に取り組んでいます。特に2040年を見据えた地域における人材の確保と育成は重要な課題です。現在健康づくり係では、「健康づくり推進員」「食生活改善推進員（ヘルスマイト）」「介護予防サポーター」を養成しております。これらは、各々での活動は確立している一方で、個人間の意識の差や地域のマンパワー不足等も重なり合い、「サポーターの地域活動への帰属」については、地域格差が生じています。そのため、個人間の意識の差や地域間のばらつきを横断的に整備し、サポーター同士も横につながることで、そしてサポーター自身が地域の実情を「自分事」として捉える力を養うことで、それぞれの地域活動へ帰属できる仕組みづくりを行う必要があります。

具体的には、サポーター間の横の連携や、各分野を超えた協働を進めるために、合同研修会の開催などを通じた交流機会の創出などを考えております。そしていずれは、福祉委員や民生委員など福祉の分野で活躍している人材ともつながりながら、各々が地域活動に積極的に参画し、帰属意識を持てるような環境づくりを進めていきたいと考えております。



そこで以下の点について、ご意見を伺いたいと考えております。

1. サポーターが「自分事」として地域活動を捉えるために、大切だと考えられる要素についてお聞かせください。